

緊張高まる東アジア

—対米牽制で一致する中国と北朝鮮—

堀田 幸裕

(霞山会主任研究員／上智大学非常勤講師)

【要約】

米中対立が激化する中で、東アジアの緊張が高まっている。台湾海峡では、2022年8月のペロシ米下院議長の訪台をめぐって中国軍が大規模な軍事演習で対抗するなど、その影響は台湾のみならず、日本や韓国にとっても対岸の火事ではなくなっている。東アジアにおける米国の関与が大きくなる中で、中国と同じく米国への牽制という点で一致する北朝鮮とロシアの存在感も増している。コロナ禍で一時的に中国と北朝鮮の経済関係については落ち込んだが、2019年の習近平訪朝以降、両国関係はより緊密なものとなっており、今後は大規模な経済的支援などが実施される可能性が高い。だが、中朝は「同盟」関係にあるとはいえ、日米同盟や米韓同盟のそれとは質的にかなり異なる。北朝鮮の核開発については、中国も決して容認しているわけではない。ゆえに中朝の軍事関係は一定の範囲に留まると考える。ロシアと北朝鮮の関係については予測が難しいが、現状はまだ抑制された段階に見える。

キーワード：中朝関係、中朝友好協力相互援助条約、米中対立、北朝鮮非核化、東アジアの安全保障

一 はじめに

2022 年 8 月 2 日深夜、ペロシ米下院議長が米軍輸送機で台湾に到着し、翌 3 日に蔡英文総統と会見した（中央通訊社 2022）。直前に行われた米中電話首脳会談では台湾問題をめぐり、習近平国家主席が「火遊びをすれば、自ら身を滅ぼす（玩火必自焚）」（中國外交部 2022b）と、バイデン米大統領を強く牽制していた¹。また、ペロシ氏の台湾訪問スケジュールは事前に公式発表されず、2 日夜には本当に来訪するのかどうか、台北・松山空港に世界のメディアの注目が集まるなど、こうした状況下で行われた外遊だった。

ペロシ氏の訪台を受けて、中国側は即座に台湾島を包囲する形の軍事演習を実施するため、4 日から 7 日にかけて当該海域に航空機や船舶が立ち入らないよう告知した（新華網 2022）。ペロシ氏訪台に強い不満を表明する形での対抗措置だ。この演習は 10 日まで継続され、多数の軍用機や軍艦が台湾海峡の中間線を越えた。そして訓練終了後の 11 日になっても、11 機の軍用機が中間線を越えて台湾側の空域に進入しており（中華民國國防部 2022）、こうした中国軍の行動の常態化が懸念されている。またこの中国軍による軍事演習では、日本の EEZ 内に中国軍の発射した弾道ミサイルが 5 発着弾し、台湾海峡の緊張は決して対岸の火事でないことを日本側も思い知らされた（防衛省 2022）。

10 月に開催された中国共産党第 20 回党大会において、習近平総書記の 3 期目続投が決定しており、中国の台湾問題に対する強硬な

¹ バイデン大統領は習近平国家主席に、三権分立のアメリカの政治制度の下では大統領であってもペロシ下院議長を止める権限はないことや、「一つの中国」政策に変化はないことを説明したが、議論は平行線をたどったとされる（朝日新聞デジタル 2022a）。

姿勢などに当面大きな変化はないと見られる。そしてアメリカは、バイデン大統領が「台湾有事なら軍事関与」する決意を明言しており（NHK NEWS WEB 2022b）、「一つの中国原則」は維持しつつも現状変更の企てには断固とした態度を取る覚悟を見せている。東アジアの情勢は今後も緊張の度合いを高めていくだろう。東シナ海で尖閣問題やガス田開発などをめぐり中国と対立する日本は、日米同盟の強化を進めている。韓国も、訪韓したペロシ氏とは尹錫悦大統領が休暇を理由に会見を行わないなど及び腰の姿勢も見え隠れしたが、文在寅前政権と異なり日米韓の安全保障協力を深めていくという積極性が窺える。

このように軍事的緊張が増す東アジアにおいては、アメリカの関与がより強化されていく傾向にあるが、一方で中国との連携を深めていく可能性があるのがロシアと北朝鮮だ。

6月、中国海軍のフリゲート艦1隻が尖閣諸島の魚釣島南西の接続水域に入る直前に、ロシア海軍のフリゲート艦1隻が同じく尖閣諸島沖の接続水域に入り航行するという事態があった。中ロ軍艦による尖閣接続領域での威嚇航行は6年ぶりのことである（濱本2022, 29）。中ロは明らかに日米と対峙する形で協調した動きを見せている。だがロシアは目下、ウクライナとの戦闘を継続中であり、極東にまで積極的関心を向ける余力はないと考えられるため、一定範囲の関与に留まるものと思われる。

そしてロシア以上に中国との関係を近年深めている国が北朝鮮だ。北朝鮮は伝統的な中国の友好国であり、かつ両国は事実上の「同盟」関係にある。北朝鮮は日本と国交がなく、「拉致・核・ミサイル」問題をめぐり対立した状況にある。同時に、保守政権である韓国の尹錫悦政権に対しても反発を強めている。また、中国の「台湾統一」を支持する姿勢から台湾の蔡英文政権とも相容れない

立場だ。つまり北朝鮮は、日台韓のいずれとも関係が良好とは言い難い。ゆえに、東アジア地域のアメリカの関与に抵抗する対抗軸として中朝両国が関係を強化していくことは、日台韓の安全保障上の障壁として発展するのではないかという不安も出てこよう。ただ、結論から言ってしまうと、その影響は限定的と筆者は考えている。

本稿では以下、近年の中朝関係に注目して見ていくとともに、その背景にある対米牽制での一致点と、中朝の軍事的関係を含めて、それが日本や台湾、韓国にとり本当に脅威となり得るものなのか考察してみたい。

二 近年の中朝関係－対立から関係強化へと転換

1 中国支持の姿勢を明確にする北朝鮮

ペロシ氏の台湾訪問に関して、北朝鮮は素早い反応を見せている。2022年8月3日、「中国の統一偉業遂行を阻害しようとする米国の企図は挫折を免れないだろう」として、北朝鮮外務省代弁人が朝鮮中央通信記者に回答する形で以下のように発表している（조선민주주의인민공화국외무성 2022）。

「現状況は米国の破廉恥な内政干渉行為と意図的な政治軍事的挑発策動こそ、地域の平和と安全を害する禍根だということを示している。

台湾は中国の不可分の一部であり、台湾問題は中国の内政に属する問題だ。

自国の内政に露骨に干渉し、領土保全を破壊しようとする外部勢力たちの行為に対応措置を取ることは主権国家の当然の権利だ。

われわれは台湾問題に対する外部勢力の干渉行為を糾弾排撃し、国家主権と領土保全を堅固に守護しようとする中国政府の正当な立

場を全面的に支持する。

中国の成長強化と統一偉業遂行を阻害しようとする米国の企図は挫折を免れないだろう。」

中国の台湾政策に対する全面支持の姿勢と合わせて「対応措置」、すなわち軍事演習の実施についてもこれを当然の権利だとして擁護する構えを見せている。ただし北朝鮮が中国のため、どのように具体的な協力をするのかということとは述べられていない。

また同 10 日には、朝鮮労働党中央委員会名義の連帯書簡を中国共産党中央委員会宛てに送り（조선중앙통신 2022c）、その中では「中国の強力な抗議と厳粛な警告、国際社会の普遍的な反対にもかかわらず、公然とほしいままに行われた米国現職高位政客の台湾行脚を中国の主権と領土保全に対する重大な侵害とし、中国共産党の権威をダウンさせ、第 20 回党大会の成功裏の開催を妨害しようとする許すことのできない政治的挑発行為」と指摘している。書簡は続けて、「米国が 20 世紀 50 年代から持ち出したアジア太平洋安保戦略が今日、『インド太平洋戦略』に改悪されて、社会主義中国の成長・強化と祖国統一偉業を妨げるところに基本目標を置いて強行推進されている」として、「米国が朝中両国の社会主義を孤立、圧殺する上でこのような常套的な手法を最も集中的に、最も卑劣に適用している」と批判している。前段は中国に対する支持声明だが、後段ではこうしたやり方はアメリカが北朝鮮を圧殺するための戦略としても用いていると非難する流れになっている。

台湾問題のみならず、北朝鮮は 2019 年頃から今回のように中国が国際社会から批判される局面が生じると、中国支持の声明を出している。たとえば 2019 年 8 月、「逃亡犯条例」改正案をめぐる抗議運動が激しくなる中、香港ではデモ鎮圧用放水車の投入や警察官による発砲などで混乱が続いていた。こうした状況に対して朝鮮労

働党機関紙『労働新聞』は、デモ隊を極端分子として「法に露骨に挑戦する犯罪行為であり、体制拒否、政権反対を目的とした反国家的行為である」としつつ、「香港問題は全的に中国の内政に属する問題であるため、いかなる国や機構、個人もこれに干渉する権利」はなく、「香港問題は当然、中国の意思と利益に即して解決されなければならない」と主張している（조선중앙통신 2019）。中国の立場を立てつつ、外部からの香港民主化勢力への支援などを牽制する内容である。

また 2020 年 7 月、新疆ウイグル自治区におけるサプライチェーンが少数民族の強制労働や人権侵害を伴うものかを調査する諮問機関を立ち上げるとアメリカが発表した際には、『労働新聞』が「新疆地域の社会経済発展のために」という記事を載せ、新疆では中国共産党の少数民族政策の下で発展し生活が改善されているとして、中国の党と政府が「不純な目的を追求する外勢の内政干渉策動を断固として排撃し、国家の主権と安全、発展利益を堅固に守護している」と、やはり中国の新疆政策に対し支持の姿勢を示すとともに「外勢の干渉」に警鐘を鳴らしている（로동신문 2020）。

2 ハノイの苦い経験－対米交渉の挫折を味わった北朝鮮

中国の香港や台湾政策を支持する北朝鮮の声明などには、外勢の干渉という言い方でアメリカを強く批判する主張がセットで盛り込まれている。北朝鮮のアメリカに対する不信は朝鮮戦争以来の伝統的対立構図によるものであるが、2019 年 2 月のハノイ米朝首脳会談の挫折とも関連すると思われる。この会談で北朝鮮は、寧辺の核施設解体という部分的な非核化と制裁の一部緩和を引き換えにする

という、段階的な同時行動原則を求めたものの、アメリカが北朝鮮の全ての核・ミサイル施設の廃棄というビッグディールを要求したため、交渉が成立しなかった。

北朝鮮はハノイ会談において寧辺核施設の解体を提示することで、2016年以降に採択された国連安保理制裁決議5件の解除を強く求めた（日本経済新聞 2019）。すなわち、北朝鮮の外貨獲得手段を封じる目的で行われている資源輸出、委託加工貿易の制限や労働者の国外出稼ぎ禁止措置と、それに加えて北朝鮮向けの石油製品、工業機械類の輸出規制などを撤回しろという主張だ。これら制裁が北朝鮮の経済活動に大きな打撃となっているという彼らの本音を覗かせた。その後の米朝関係は2019年10月にストックホルムでの米朝実務者協議が決裂し、かつての停滞状況に逆戻りしてしまっている。バイデン政権は北朝鮮の非核化姿勢に変化がないことから協議再開には関心を示さず、両国の外交接触は途絶えたままだ。

3 名指し批判の対立から一転した中朝関係

近年は緊密である中朝関係だが、2013年2月12日に北朝鮮が三回目の核実験を行った頃から、しばらくしっくりしないものとなっていた。この時の核実験に際しては、王毅外交部長が「われわれは中国の玄関先で揉め事を起こすことを許さない」と発言し、また中国四大銀行が北朝鮮向け送金業務を停止するなどの措置をとった。

国際協調を進める中国はアメリカの説得もあり、北朝鮮のミサイル発射と核実験に対する制裁措置を盛り込んだ国連安保理決議の採択に拒否権を行使しなかった。そのため、2016年から17年にかけてさらに制裁条件が積み重なることで、前述したように北朝鮮は経済的に苦境へと追い込まれていったという経緯がある。そうした

不満を爆発させる形で北朝鮮は「血で成し遂げた共同の獲得物である貴重な友誼関係もためらわずに投げ捨て」たと暗に中国を非難した。また 2017 年 5 月には「朝中関係の柱を切り倒す無謀な言行をこれ以上してはいけない」と中国を名指しで批判する論評を朝鮮中央通信が伝え、『労働新聞』にもその全文が掲載された²。海外向けの通信社配信記事としてだけでなく、北朝鮮国民が目にする『労働新聞』にも転載したのは、この対中批判が極めて深刻な問題意識だとして国内でも共有されるよう指導部が判断したからだろう。

こうした中朝関係に転機が訪れるのは 2018 年である。周知の通り、この年の 6 月にはシンガポールで初の米朝首脳会談が開催された。事前の実務者協議が不十分なまま強行されたため、本当に北朝鮮の非核化に向け意味のある対話となるのか不安視されていたが、史上初の首脳会談というインパクトは大きかった。しかしながら北朝鮮側も決して中国を無視して、アメリカとの関係改善に邁進したわけではない。2018 年 3 月、金正恩氏は 2012 年に党第一書記と国防委員会第一委員長というポスト（肩書はいずれも当時）に就いてから 4 年も経過して初めて中国を訪問し、習近平総書記と首脳会談を行った。アメリカとの本格的な対話を開始する前に意志の疎通を図ったと考えられる。ただし、続けて行なわれた同年 5 月の大連での中朝首脳会談については、それによって北朝鮮の態度が「少し変わった」として、「少しがっかりした」「気に入らない」とトランプ大統領が述べ、米朝首脳会談の延期を仄めかすということがあった（朝日新聞デジタル 2018）。恐らくこの時は 3 月と異なり、アメリカの承知しない形で、中国が北朝鮮に何らかのはたらきかけ

² この時期の中朝関係の詳細については、堀田（2020）、103～140 ページを参照のこと。

を行ったのだと推測される。中国は意図的に、北朝鮮がアメリカとの関係改善を進める流れに楔を打ち込んで牽制したのではないか。

4 米中貿易摩擦の激化

中朝関係が急転したのは、米中関係をめぐる環境が同時期に変化しつつあったことも影響していよう。トランプ政権は、2018年2月から4月にかけて中国の鉄鋼とアルミへの追加関税や対中追加関税1300品目の追加、そして対中輸入1000億ドルへの追加関税の検討など、矢継ぎ早に対中制裁措置を発表している。中国はこれに、米国からの輸入品128品目に対する追加関税、米国からの輸入品106品目に対する追加関税候補の発表などで対抗した。米朝首脳会談に向けた動きの背後で、米中貿易戦争が火蓋を切ったのである。

シンガポールでの米朝首脳会談の後、中国はそれまでの姿勢を変化させて北朝鮮の非核化そのものに進展がない状態にもかかわらず、国連安保理制裁の緩和をロシアとともに主張するようになる。ロシアも2014年のクリミア併合以来、欧米から制裁を受けている立場であった。そして中朝は歩調を合わせるようにして、2018年10月10日に三カ国の共同報道文を出し、北朝鮮が「有意義で実践的な非核化措置などを取ったことについて注目し、国連安保理事会が適時に対朝鮮制裁の調節過程を稼働させなければならない必要性について見解の一致を見た」とする発表を行った（*조선중앙통신* 2018）。ここに来て、中国・ロシア・北朝鮮は、それぞれアメリカによる理不尽な制裁を受けているという思いを同じくする国同士で、対米牽制という一致した行動を取ってきたのだ。

5 習近平国家主席の北朝鮮訪問が関係改善の決め手に

アメリカとの対立が進行している状況下で、中国としては北朝鮮がアメリカとの関係改善をこれ以上進めて、自陣営を離れていってしまうことはもはや容認できないことだったろう。しかし、ここで中国にとって幸いなことは、前述したように 2019 年 2 月の米朝ハノイ会談が「ノーディール」で終わったことだ。それから約 4 カ月後の 6 月に習近平国家主席は、中国首脳として 14 年ぶりの北朝鮮訪問を行った。これはそれまでの歴代指導者とは異なり、「友好訪問」ではなく「国賓訪問」として行われた（新華網 2019）。

訪問中に行なわれた首脳会談で習近平国家主席は、「中国側は朝鮮側が自身の合理的な安全と発展に関する懸念を解決するため、力の及ぶ限りの手助けを提供したいと考えている」と発言する（中國政府網 2019a）。合理的な安全に関する懸念とは、北朝鮮国家の存続に関わるような安全保障上の脅威を指すと考えられ、これについては四章で後述する。そして、発展に関する懸念とは国際制裁のことを指すとされ、その二つの懸念の解決のために手助けすると言明したのであった。制裁については、その直後の 6 月 29 日に大阪で行われた米中首脳会談の席で、習近平国家主席がトランプ大統領に「アメリカ側が柔軟性をはっきりと示し、朝鮮側と向き合って、朝鮮に対する制裁を適時緩和することを含め、互いに配慮して解決するやり方を、対話を通じて見つけ出すよう推進した」とされ、中国は北朝鮮制裁の緩和をアメリカに直接要求している（中國政府網 2019b）。

ただし、国連安保理で決議された制裁の緩和については、米中ロ英仏の安保理常任理事国による全員一致の見解が必要で、中国単独で決められるものではない。そのため実現可能性は別として、中国が北朝鮮側の要求に寄り添った対応をしていることを示すための外

交的ポーズだったと思われる。

制裁緩和を具体化する問題については今後の課題となったものの、中朝関係の改善はこの習近平訪朝をきっかけに決定的なものとなった。100万トン前後の食糧支援などもこの後に実施された模様であり（朝日新聞デジタル 2019）、中国の北朝鮮に対する経済協力が一気に進むかと思われたが、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大という予期せぬ出来事によって足踏み状態となる。

三 中朝経済関係はコロナ禍で停滞

1 北朝鮮による国境の封鎖

表1 北朝鮮の対外貿易額に占める中国の比率

年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
%	89.1	88.3	89.1	90.2	91.3	92.7	94.8	95.8	95.4	88.2	95.6

出典：KOTRA（各年版）。

注：中国税関が中国から北朝鮮への原油輸出を、2014年以降は統計に計上していないのに対して、KOTRAの統計はパイプラインを用いた原油の輸出は継続されているとみなして推計している。

2019年の習近平国家主席の訪朝による両国関係の修復により、制裁で苦境に立つ北朝鮮経済を中国がどのように支援するか注目されたが、それは政治とは別の要因によって阻まれた。2020年2月以降、北朝鮮は新型コロナウイルス感染症の防疫措置として、国境を封鎖したのである。この国境封鎖措置により、トラック輸送や人の往来はストップした。結果として2020年の中朝貿易輸出入総額は5億3905万9424ドルにまで急減し、2019年比で80.8%減となった。2021年も輸出入総額は3億1805万4916ドルと振るわず、2020年比で41%減になるなど、回復の兆しは見えなかった。中朝貿易は2013年をピークに緩やかな減少傾向にあり、とりわけ国連安保理制裁が強化された2018年以降の落ち込みが激しい。しかし

ながら 2020 年と 2021 年の減少幅は過去と比較しても類例がない規模である。

2020 年 2 月以降の中朝貿易は主として海路を中心に細々と行われている。陸路は中国遼寧省・丹東市と北朝鮮・新義州市を結ぶ国際貨物列車の運行が 2022 年 1 月 17 日に再開されたのだが、丹東市でのコロナ感染拡大を受けて 4 月下旬に中断されてしまった（中国外交部 2022a）。その直後の 5 月 12 日に北朝鮮は朝鮮労働党政治局会議で「オミクロン変異株 BA. 2」の患者が平壤で確認されたとして、国家防疫事業を最大非常防疫システムに移行すると発表した（조선중앙통신 2022a）。北朝鮮がコロナ感染者の国内発生を認めたのはこれが初めてである。なおこの事態を受けて、瀋陽空港から北朝鮮の高麗航空輸送機 3 便が医薬品などを積んで平壤に飛行したと伝えられ、中国からは迅速に緊急援助が行われたことが確認されている（NHK NEWS WEB 2022a）。こうした中国の対応を見ると、中朝の貿易停滞はやはりコロナが主要因であることが窺える。

2 貨物列車による陸路貿易再開

中朝間の国際貨物列車の運行はその後 2022 年 9 月 26 日に再び始まったが（中国外交部 2022c）、コロナで一旦中止されるまでの 1 月から 4 月までの期間に中朝貿易ではどのような取引が行われたのか。列車での輸送品目のみを抽出することはできないが、全体として食品や医薬品、そして工業用目的と見られる資材の割合が比較的高いことが分かり、北朝鮮で何が不足しているのかが窺える。また 2020 年以降の単月では、2022 年 4 月が 9809 万 5295 ドルと最も大きい金額となっているが、コロナ前の 2019 年比で見ると最も低い単月取引額となった 2019 年 2 月の 8898 万 3792 ドルを上回る

が、2019年の月別平均額2億1448万2471ドルには遠く及ばない。やはり貨物列車の運行だけではなく、トラック輸送を利用した陸路交易が本格的に再開されない限りは、中朝貿易の復調は難しいだろう。それは、脱コロナにかかっていると言えるが、北朝鮮は2022年8月10日に開催した全国非常防疫総括会議で、北朝鮮領内に入った新型コロナウイルスを撲滅したとして、最大非常防疫戦で勝利を勝ち取ったことを金正恩総書記が宣言している（조선중앙통신2022d）。今後は中朝貿易の正常化に向けて、再開した貨物列車の運行を安定的に継続するとともに、トラック輸送や両国間の人的往来の速やかな復活にも取り組んでいく可能性が高い。

四 中朝の軍事関係

1 「同盟」関係を維持する両国

さて、習近平国家主席が2019年6月の訪朝で力の及ぶ限りの手助けを提供すると言及した内容には、経済面での手助けだけではなく、「合理的な安全に対する懸念」も含まれていたことは先述した。それが具体的に何であるのかは公開されていなかったが、2021年7月に中国は、1981年以降20年ごとに更新されている中朝友好協力相互援助条約（1961年締結）を2041年まで延長した。

この条約が同盟条約であるとみなされるのは、その第二条で北朝鮮（もしくは中国）が第三者による攻撃を受けた際に、中国（ないしは北朝鮮）はこれに軍事援助を含めた支援を行うことが明文化されているからだ。つまり、アメリカが北朝鮮に対して軍事的オプションを行使すれば中国は北朝鮮を助けるため、米中戦争を覚悟で介入する必要があるとも解釈できる。ただ、現実には中国がそこまでのリスクを冒して北朝鮮を支援するかどうかは、ひとえにそれが中

国の国益とどの程度関わるのかということに尽きるだろう。

たとえば、2006 年 10 月の北朝鮮による最初の核実験の際には、中国外交部が定例記者会見の場で中朝が同盟関係にあるという表現を否定しつつ、両国は国際関係準則を基礎に確立された正常な国と国の関係であると明言している。また、2009 年頃には北朝鮮の二回目の核実験を受けて、条約の廃棄が指導部でも議論になっていたことが知られている³。北朝鮮の核開発に対する中国の強い危惧がそこにはあった。

2010 年 5 月、核実験実施後に初めて行われた中朝首脳会談では、当時の胡錦濤国家主席から「戦略的意思疎通の強化」という言葉で金正日総書記は釘を刺されたと見られる。この言葉は今回の条約延長と同時に出された、習近平国家主席からの中朝友好協力相互援助条約締結 60 周年祝電にも登場している。

戦略的意思疎通という言葉が何を意味しているのか中朝双方からはっきりした説明はない。だが、朱建榮は 2001 年の中朝友好協力相互援助条約更新の際に中国が、「米韓などによる一方的な侵略・攻撃にはこの条約が適用されるが、ほかのケースに関しては適用されない」旨を伝えたとしている（朱建榮 2022, 30）。つまりアメリカによる一方的な北朝鮮攻撃であるなら、それは国境を接する中国の安全保障上も看過できない事態だ。しかし北朝鮮の不要な挑発でアメリカの軍事介入を招けば、中国にとっては米中のさらなる対立を深刻化させるだけであり、マイナスにしかならないという本音がここには見え隠れする。要するに北朝鮮は中国としっかり情報を共有するとともに、中国の了解なく徒に緊張を激化させるような行

³ 中朝友好協力相互援助条約の歴史的経緯の詳細と「更新」に関する仮説は、堀田（2022）、11～23 ページを参照のこと。

動をとるなら面倒は見ないと念を押したのが、この戦略的意思疎通の含意なのだと考えられる。ゆえに北朝鮮側も、中国が自分たちに対して抱えている不信感については認識しよう。

このように捉えると、中朝は条約によって事実上の同盟関係にあるものの、それはあくまで北朝鮮の「合理的」な安全保障を担保する範囲に限るものということになる。習近平国家主席の2019年訪朝時の発言の趣旨は、そうした中国側の基本的な考えを前提に、2年後に迫った条約の更新（延長）を持ちかけて北朝鮮の信頼を勝ち取ると同時に、引き続き朝鮮半島における中国の関与を明確にすることで、アメリカを牽制する意図を持たせるものだったのだろう。

2 中国の北朝鮮への軍事協力

中国が北朝鮮にどれだけの軍事的な支援や協力を行っているのか。朝鮮戦争の停戦以降についてはほとんど内容が明らかになっていない。表2は、中国の研究書に掲載されていた改革開放以降2011年までの中朝軍事交流に関する部分をすべて訳出したものだが、これ以外にも明らかにされていないものも多いと思われる。

具体的な軍事支援としては、1971年9月6日に調印された「中国が朝鮮に無償で軍事援助を提供することに関する協定」により、中国が北朝鮮に6億人民元の無償軍事援助と無利息の借款7.14億元を行ったという内容が僅かに知られている（楊昭全、孫豔姝2013, 558）。しかしながら北朝鮮の核開発については、少なくとも直接的な支援があったことを証明する情報は殆どない。2012年4月、平壤で行われた軍事パレードで初公開された、弾道ミサイルを運搬する朝鮮人民軍の大型特殊車両が中国製であったことに注目が集まった。しかし、中国企業の輸出管理が杜撰だったことを示す

状況証拠もあり、政府レベルで行われた支援とする確証は持てないものだ（堀田 2014, 8）。また毛沢東は、金日成に北朝鮮が核開発を行うことに対して反対の姿勢を伝えていたともされている（太永浩 2019, 39-40）。

中国と北朝鮮は、前述したとおり事実上の同盟関係にあるものの、これまで一度も合同で軍事演習などを実施したことが知られていない。軍事介入条項に従えば、中朝両軍による共同軍事作戦の必要もあるかと思うが、それに対する備えが一切なされていないのが実情である。そのためテクニカルな面でも、両軍が共同で軍事行動を行うのは現実的に難しいのではないかと考えられる。たとえ中朝が米国への対抗で同盟関係を強固にしていくとして、日米同盟や米韓同盟のような定期的に合同演習を続けてきた練度の高い段階へ昇華させるまでには、相当な時間を要するだろう。また、そもそも北朝鮮のような自主性を重んじる国家が、中国との軍事協力を発展させて同盟をより高い次元へ強化しようとしていくのかについても、疑問の余地がある。

表 2 中国・改革開放以降の対北朝鮮軍事外交

1979年6月	中国軍事博物館長の劉漢率いる考察組が朝鮮へ出国
1980年5月20日	中央軍事委員会副主席、國務院副総理兼国防部長の徐向前が朝鮮人民軍友好参観団と会見
1980年5月30日	中国人民解放軍新聞代表団が朝鮮訪問
1980年6月8日	中央軍事委員会主席の華国鋒が朝鮮人民軍友好参観団と会見
1980年10月24日	王平が代表団を率いて平壤で中国人民志願軍参戦30周年記念活動に参加
1982年6月14日	国防部長の耿飈が代表団を率いて朝鮮を訪問

1982年9月28日	国防部が朝鮮人民軍政工代表団を歓迎する宴会を設ける
1982年10月11日	韓先楚を団長とする元中国人民志願軍代表団が朝鮮訪問
1983年7月22日	洪学智を団長とする中国人民友好代表団が平壤に出発、朝鮮祖国解放戦争勝利30周年慶祝活動に参加
1985年6月4日	総参謀部の招待による、朝鮮軍事停戦委員会人民軍友好参観団が中国訪問
1985年10月17日	元志願軍代表団と元志願軍英雄代表団が朝鮮訪問
1985年10月21日	志願軍烈士家族代表団が朝鮮を訪問し志願軍参戦35周年記念活動に参加
1986年8月18日	北京軍区司令員秦基偉が朝鮮を訪問
1988年4月16日	広州軍区政治委員の張仲先を団長とする中国人民解放軍友好参観団が朝鮮を訪問
1988年5月16日	国防部長の秦基偉が朝鮮政府軍事代表団を歓迎する宴会を設ける
1989年3月1日	中国人解放軍外事代表団が招待を受け朝鮮を訪問
1989年8月25日	遲浩田総参謀長が人民大会堂で朝鮮人民軍総参謀長が率いる朝鮮軍事代表団を招宴する
1989年10月2日	中央軍事委員会副秘書長の劉華清が率いる中国軍事代表団が朝鮮友好訪問を実施
1989年10月10日	朝鮮中央人民委員会が中国軍事代表団の団長である劉華清上將に一級国旗勲章を授与
1989年12月14日	総政治部主任の楊白氷が朝鮮人民軍政工代表団と会見
1990年8月22日	国防部長の秦基偉が率いる中国軍事友好代表団が朝鮮友好訪問を実施
1992年6月3日	中央軍事委員会秘書長、総政治部主任の楊白氷が招待され朝鮮訪問
1993年11月22日	国防部長の遲浩田が朝鮮人民軍友好参観団と会見
1994年6月6日	総参謀長の張万年が朝鮮人民軍総参謀長の崔光が率いる朝鮮軍事代表団と会見

1994 年 10 月 24 日	軍事委員会の指導者である遲浩田と張万年がそれぞれ朝鮮人民軍友好参観団と会見
1994 年 12 月 15 日	朝鮮軍事停戦委員会に派遣され駐在していた朝中側の中国人民志願軍代表団が帰任する
1995 年 9 月 20-27 日	中国人民解放軍軍事科学院政治委員の張工中將が率いる友好参観団が朝鮮に対する友好訪問を実施
1995 年 10 月 21-28 日	中国人民解放軍広州軍区政治委員の史玉孝上將が率いる元志願軍代表団一行が朝鮮で志願軍参戦 45 周年の記念活動に参加
1996 年 5 月 28 日-6 月 5 日	朝鮮人民武装力量部副部長の鄭昌烈上將が率いる朝鮮人民軍友好参観団が中国への正式友好訪問を実施
1996 年 7 月 10-14 日	中国人民解放軍海軍北海艦隊司令員の王繼英中將が率いる 112 号と 118 号駆逐艦及び将兵 610 人で組織される艦隊編隊、招待により朝鮮友好訪問を実施、合わせて「中朝友好協力相互援助条約」調印 35 周年記念活動に参加
1997 年 6 月 10-17 日	朝鮮人民軍副総参謀長の李奉竹中將が率いる朝鮮軍事友好参観団が中国への正式友好訪問を実施
1997 年 10 月 14-22 日	中国人民解放軍総後勤部政治委員の周坤仁中將が率いる軍事友好参観団が朝鮮への友好訪問実施
1998 年 5 月 26 日-6 月 1 日	朝鮮人民軍総政治局副局長の池永春中將が率いる友好参観団一行が中国への友好訪問実施
1998 年 8 月 3-7 日	副総参謀長の熊光楷中將一行が朝鮮への友好訪問を実施
1998 年 10 月 16-22 日	北京軍区政治委員杜鉄環中將が率いる中国人民解放軍友好参観団一行が朝鮮への友好訪問を実施
1999 年 6 月 15-23 日	瀋陽軍区副司令員の葛振峰中將が率いる中国人民解放軍瀋陽軍区代表団が朝鮮への友好訪問実施
1999 年 7 月 13-20 日	朝鮮人民武力省副相の呂春石上將が率いる朝鮮人民軍友好参観団一行が中国への友好訪問実施
1999 年 10 月 16-23 日	成都軍区司令員の廖錫竜中將が率いる中国人民解放軍友好参観団一行が朝鮮への友好訪問を実施

2000年10月22日	中央軍事委員会副主席の遲浩田上將が率いる代表団一行が朝鮮で志願軍参戦50周年記念活動に参加
2001年2月27日	空軍司令員の劉順堯上將が率いる代表団が朝鮮訪問
2003年4月22日	朝鮮国防委員会第一副委員長、人民軍総政治局長の趙明禄が訪中
2003年8月18-22日	中共中央書記処書記、中央軍事委員会委員、総政治部主任の徐才厚上將が朝鮮訪問
2003年11月18-22日	朝鮮人民武装力量部副部長の李泰日が率いる代表団が訪中
2004年	中国軍隊が朝鮮で緊急人道援助に参加
2004年4月19日	朝鮮労働党総書記の金正日が中国への非公式訪問を実施
2010年8月26-30日	金正日が中国への非公式訪問を実施、合わせて吉林省、黒竜江省を参観視察
2010年10月23日	中央軍事委員会副主席の郭伯雄上將が率いる中華人民共和国高級軍事代表団が朝鮮で、志願軍参戦60周年記念活動に参加、合わせて朝鮮への正式友好訪問を実施
2011年7月7日	総政治部副主任の賈延安が北京で中国を訪問した朝鮮人民軍青年軍官代表団と会見
2011年8月4日	「鄭和」号遠洋訓練艦と「洛陽」号ミサイルフリゲート艦で組織される海軍訓練艦編隊が、編隊指揮員で北海艦隊司令員田中中將の指揮のもと朝鮮民主主義人民共和国元山市に到着、4日間の友好訪問開始
2011年8月26日	國務委員兼国防部長の梁光烈が朝鮮人民武力部後方総局長の全昌福を団長とする朝鮮人民軍後勤代表団と会見

出典：張芳（2014）。

注：張芳（2014）に掲載された「新中国成立以来中国軍事外交要事記（1949-2013）」より、1979年以降の中朝関係項目を訳出。人物の肩書や固有名詞表記は原文ママとした。金正日訪中のうちなぜ2件だけが取り上げられているのかは不明。

五 おわりに—中朝口の連携強化も周辺国への影響は限定的か

以上、近年関係を強化している中国と北朝鮮の動きについて述べた。北朝鮮が核実験を重ねることで両国関係は 2013 年から目に見えて悪くなり、北朝鮮が公然と中国批判をするに至った。しかし、トランプ政権時に米朝の非核化協議が唐突に再開されると中国は焦燥感を露わにし、北朝鮮との関係復活を試みたのだろう。それはちょうど、米中関係が貿易摩擦の激化によって対立を深めるタイミングと重なっており、また米朝協議が 2019 年 2 月のハノイ会談のノーディールで挫折したことも、中国としては都合の良い展開となった。

そして北朝鮮が求める国連安保理による制裁緩和という主張に耳を傾けることで信頼を得て、習近平国家主席は中国の首脳として 14 年ぶりの訪朝を実現した。続いて北朝鮮の安全保障上の懸念を担保するという名目で、一時は存続が危ぶまれていた中朝友好協力相互援助条約の更新延長も決断する。こうした両国の関係深化は、中国の主張に与しつつ北朝鮮が足並みを揃えて日台韓の軍事的な対抗軸として浮上し、東アジアのさらなる緊張につながるのではないかという不安を周辺国に抱かせるものでもあった。

米中対立、さらにはウクライナ戦争を経て、中国、ロシアそして北朝鮮は共同で米国への対抗姿勢を鮮明にしている。国連安保理はウクライナ戦争以降のロシアによる拒否権の乱発により、機能不全に陥っている状況と言っても過言ではない。北朝鮮はその隙を窺って 2022 年 10 月 4 日に中距離弾道ミサイル (IRBM) の発射実験を行ったが、国連安保理では中朝の反対で非難声明も出せなかった (朝日新聞デジタル 2022b)。また 11 月 18 日に北朝鮮は、新型大

陸間弾道ミサイル（ICBM）だとする「火星砲-17型」の発射実験にも踏み切った。これを受けて招集された国連安保理の緊急会合では、議長声明を出して北朝鮮を非難するよう求めるアメリカに対して、中国とロシアはアメリカが朝鮮半島周辺での緊張緩和をすべきと主張。安保理として一致した行動を取ることはやはりできなかった（NHK NEWS WEB 2022c）。これは、北朝鮮制裁の緩和をめぐって2018年以来続けられてきた「米英仏」対「中ロ」という国連安保理での駆け引きが、今後も固定化することを意味する。ただしこれは新たな制裁が追加されないかわりに、現状の制裁もそのままになるわけであり、北朝鮮として本当は望ましい形ではない。

中国とは、コロナの影響で止まっていた経済支援がこれから本格的に進められていくかもしれないが、北朝鮮とロシアの関係がどれだけ強化されていくかは未知数だ。北朝鮮は7月13日に、「ドネツク人民共和国」と「ルガンスク人民共和国」を独立国家として承認して親ロシア姿勢を示してみせたが（조선중앙통신 2022b）、即日ウクライナから断交されている。また北朝鮮とロシアは、朝鮮半島の解放記念日の8月15日に相互に祝電を送り、金正恩総書記は「こんにち、敵対勢力たちの軍事的威嚇と挑発、強権と専横を粉砕するための共同の戦線で両国間の戦略・戦術的協同と支持・連帯は新たな高い段階に上がっている」（조선중앙통신 2022e）とし、プーチン大統領はロ朝両国が「共同の努力によって総合的かつ建設的な双務関係を引き続き拡大していく」（조선중앙통신 2022f）と、お互いに積極的に両国関係を発展させていくことを誓い合った。しかし一方で、9月6日にアメリカ国家安全保障会議（NSC）のカービー戦略広報調整官が、北朝鮮にロシアが弾薬の調達について申し入れをしたと発表を行うと（日本経済新聞 2022）、北朝鮮は9月21日に国防省装備総局副総局長名義の談話で「われわれは、これ

までロシアに武器や弾薬を輸出したことがなく、今後もそのようにする計画がない」と完全否定した（조선중앙통신 2022g）。北朝鮮がこのような反応を示すのは珍しく、ロシアとの関係強化の態度は見せつつも、米国との決定的な対立は避けたいという意向があると捉えることもできるとする見方もある（福田 2022）。ともあれ、ロシアと北朝鮮との軍事協力の可能性については、現段階ではどのような形となるか予断を許さないが、今後の進展に要注目だ。

中国と北朝鮮の軍事的連携についてもすでに見たように、中朝は事実上の同盟関係にあるとは言ってもそれは日米同盟や米韓同盟とは質的にかなり異なるものであって、北朝鮮の体制を保障するための最低限の保険のようなものである。むしろそれがあつたために、北朝鮮に無用な軍事挑発を引き起こすことがないよう中国が睨みを利かせるといふ効果の方が大きいかもしれない。

ゆえに中国と北朝鮮が関係を深めたところで、現在の東アジアの安全保障環境には局面を大きく変えるほどのインパクトはもたらさない可能性が高い。軍事的観点からは、北朝鮮が中国の意向も完全に無視する形で、核実験を繰り返し弾道ミサイルの発射実験を行っていた 2016 年から 2017 年当時の状況の方が、不確実性という点ではより危機的であつたと言えるのではないか。

今後、北朝鮮が核実験の再開に踏み切つた時、中国がどのような反応を示すのか注目点ではあるが、核兵器不拡散条約（NPT）体制の中にあつて北朝鮮の非核化（中国は「朝鮮半島の非核化」と表現）そのものには反対の姿勢を貫いてきたこれまでの方針を変えてまでそれを擁護することは難しいだろう。米国に対抗するという点では中朝の姿勢は一致しているものの、北朝鮮の核開発の進展自体は中国にとっては悩ましい問題であるのは変わらない。そのため、

中朝の軍事的関係の進展には、今後も一定の歯止めがかけられるのではないかと考える。

(寄稿：2022 年 8 月 15 日、採用：2022 年 11 月 30 日)

緊張情勢升高的東亞

—在牽制美國上步調一致的中國與北韓—

堀田 幸裕

(霞山會主任研究員 / 上智大學非常勤講師)

【摘要】

在美中對立局勢加劇的情況下，東亞的緊張情勢逐步升高。2022 年 8 月，隨著美國眾議院議長裴洛西訪台，中國軍隊在台灣海峽實施大規模軍事演習對抗等措施，影響所及不只是台灣，日本和韓國也不能再作壁上觀。在美國加深涉足東亞事務之際，與中國站在同一陣線，牽制美國的北韓與俄羅斯的存在感日益提升。因新冠肺炎爆發，中朝雙邊經濟關係一度低迷，但在 2019 年習近平訪問北韓以來，中朝兩國關係顯然更加緊密，中國今後提供北韓大規模經濟援助的可能性很高。然而，中朝之間雖說是「同盟」關係，但其本質與日美同盟、美韓同盟有根本上的不同。對於北韓在核武開發上的作為，中國的態度並非欣然承認。本文認為，中朝的軍事同盟關係僅侷限在一定範圍內。至於俄羅斯與北韓的關係，以現狀而言仍處於克制的階段。

關鍵字：中朝關係、中朝友好合作互助條約、美中對立、北韓非核化、東亞安全保障

Rising Tensions in East Asia: Synchronized Paths of China and North Korea in Containing the U.S.

Yukihiro Hotta

Senior Researcher, The Kazankai Foundation/Part-time Lecturer,
Sophia University

【Abstract】

Tensions are rising in East Asia amid heightened U.S.-China tensions. In August 2022, with the U.S. House of Representatives Speaker Pelosi's visit to Taiwan, Chinese forces implemented large-scale military exercises and demonstrated countermeasures in the Taiwan Strait. It influences not only Taiwan, but also Japan and on South Korea. While the U.S. has been deepening its involvement in East Asian affairs, North Korea and Russia, which stand on the same side as China, are increasingly aware of their presence in U.S.-containment. Due to the outbreak of COVID-19, the bilateral economic relations between China and North Korea were once sluggish; however, due to Xi Jinping's visit to North Korea in 2019, the relations between China and North Korea have become closer. The possibility of China's providing large-scale economic assistance to North Korea in the future is very high. Although the relationship between China and North Korea is an "alliance," its essence is fundamentally different from those of Japan-U.S. and the U.S.-South Korea alliances. China does not readily acknowledge North Korea's actions in developing nuclear weapons. This paper argues that the military alliance between China and North Korea is limited to a certain range. As for the relationship between Russia and North Korea, it is now still in a stage of restraint.

Keywords: China-North Korean Relations, Mutual Aid and Cooperation Friendship Treaty Between PRC and DPRK, U.S.-China Rivalry, North Korea Denuclearization, East Asian Security

〈参考文献〉

朝日新聞デジタル、2018「北朝鮮・中国を牽制 トランプ氏『米朝会談延期も』 米韓首脳会談」5月24日、<https://www.asahi.com/articles/DA3S13508050.html>（閲覧日：2022/10/22）。

Asahi Shimbun Digital. 2018. “Kitatyousen/tyugoku wo kensei Toranpu si ‘beityou kaidan enki mo’” [Containing North Korea and China, Trump Said “the US-North Korea Summit Meeting Could be Postponed” in the US-South Korea Summit Meeting]. May 24 (Accessed on October 22, 2022).

朝日新聞デジタル、2019「中国、北朝鮮に食料・観光支援強化 米韓牽制する狙いか」8月20日、https://digital.asahi.com/articles/ASM8J2RBFM8JUHI00J.html?_requesturl=articles%2FASM8J2RBFM8JUHI00J.html&pn=5（閲覧日：2022/10/22）。

Asahi Shimbun Digital. 2019. “Tyugoku, kitatyousen ni syokuryou/kankousien kyouka beikan kensei suru neraika” [China Increases its Food and Travel Support for North Korea. Could it be the Containment to US and South Korea?]. August 20 (Accessed on October 22, 2022).

朝日新聞デジタル、2022a「『ペロシ・ショック』はこうして起きた 訪台直前、米中緊迫の舞台裏」8月11日、<https://digital.asahi.com/articles/ASQ8B5SVMQ89UHI016.html?pn=6&unlock=1#continuehere>（閲覧日：2022/10/22）。

Asahi Shimbun Digital. 2022a. “‘Pelosi/shock’ ha kousite okita houtai tyokuzen, beityou kinpaku no butaiura” [“The Pelosi Shock,” Behind the US-China Diplomatic Tensions before Her Visiting Taiwan]. August 11 (Accessed on October 22, 2022).

朝日新聞デジタル、2022b「また国連安保理まとまらず 中ロが反対 北朝鮮ミサイルへの対応」10月6日、<https://www.asahi.com/articles/ASQB6366HQB6UHI002.html>（閲覧日：2022/10/22）。

Asahi Shimbun Digital. 2022b. “Mata kokuren anpori matomarazu tyuro ga hantai kitatyousen misairu heno taiou” [Regarding to the North Korea Missile Launching Issue, the United Nations Security Council Responds Inconsistently, Because of Oppositions from Russia and China]. October 6 (Accessed on October 22, 2022).

NHK NEWS WEB、2022a「北朝鮮 新たに約27万人発熱症状 中国から輸送機で医薬品搬入か」5月17日、<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20220517/k10013630731000.html>（閲覧日：2022/10/22）。

NHK NEWS WEB. 2022a. “Kitatyousen aratani yaku 27 mannin hatunetu syoujyou tyugokukara yusouki de iyakuhin hannyu ka” [Having Increased Approximately 270,000 New Fever Cases, North Korea might have Imported Medicine by Cargo Plane from China]. May 17 (Accessed on October 22, 2022).

NHK NEWS WEB、2022b「バイデン大統領 台湾有事に軍事的関与の考え示す」5月23日、<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20220523/k10013639871000.html>（閲覧日：2022/10/22）。

覧日：2022/10/22）。

NHK NEWS WEB. 2022b. “Biden daitouryou taiwan yuji ni gunjiteki kanyo no kangae simesu” [President Biden Expresses the Idea of Military Involvement in Taiwan Contingency]. May 23 (Accessed on October 22, 2022).

NHK NEWS WEB、2022c「北朝鮮ミサイル発射で安保理緊急会合も一致した対応とれず」11月22日、<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20221122/k10013899281000.html>（閲覧日：2022/12/8）。

NHK NEWS WEB. 2022c. “Kitachosen misairu hassha de anpori kinkyu kaigo mo itchishita taio torezu” [Security Council Fails to Reach Consensus on Responding to North Korean Missile Launch]. November 22 (Accessed on December 8, 2022).

朱建栄、2022「歴史の謎を解くカギは『内交』にあるかもしれないーディスカッションのコメント」『中国研究月報』888号（2月号）、24～31ページ。

Zhu, Jianrong. 2022. “Rekisi no nazo wo toku kagi ha ‘naikou’ ni arukamosirenai: Disukassanto no comment” [The Key to Reveal the Mystery of History could be “the Domestic Interflows,” the Comment from the Discussant]. *Monthly Journal of Chinese Affairs*, No.888, February. p.24-31.

太永浩（李柳真・黒河星子訳、鐸木昌之監訳）、2019『三階書記室の暗号 北朝鮮外交秘録』文藝春秋。

Thae, Yong Ho, trans. by Yujin Yi, Seiko Kurokawa, with translation supervised by Masayuki Suzuki. 2019. *Sankai syokisitu no angou kitatyouosen gaikou hiroku [Password from 3rd]*. Bungeisyunju.

日本経済新聞（電子版）、2019「『現実的な提案した』北朝鮮外相の記者会見全文」3月1日、<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO41904280R00C19A3000000/>（閲覧日：2022/10/22）。

NIKKEI. 2019. “Genjituteki na teian sita’ kitatyouosen gaisyuo no kisyu kaiken zenbun” [“A Realistic Proposal,” the Full Text of the North Korean Foreign Minister’s Press Conference]. March 1 (Accessed on October 22, 2022).

日本経済新聞（電子版）、2022「ロシア、北朝鮮の弾薬調達 米高官『数百万発の可能性』」9月7日、<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOGN0703I0X00C22A9000000/>（閲覧日：2022/10/22）。

NIKKEI. 2022. “Rosia, kitatyouosen no danyaku tyoutatu beikoukan ‘suhyakumanpatu no kanousei’” [Russia is Procuring Ammunition from North Korea. It “Can Possibly be Millions of Shots,” Said the U.S. Official]. September 7 (Accessed on October 22, 2022).

濱本良一、2022「中国の動向」『東亜』662号（8月号）、26～35ページ。

Hamamoto, Ryouichi. 2022. “Cyugoku no doukou” [Trends of China]. *East Asia*, No.662, August. pp.26-35.

福田恵介、2022「北朝鮮『ロシアに兵器は売らない』の本当の意味 ウクライナ戦争で変化するロシアと北朝鮮」『東洋経済オンライン』10月5日、<https://toyokeizai.net/articles/-/623731>（閲覧日：2022/10/22）。

- Fukuda, Keisuke. 2022. “Kitatyousen ‘rosia ni heiki ha uranai’ no hontou no imi ukuraina sensou de henka suru rosia to kitatyousen” [What is the Reality when North Korea Said “We Will Not Sell Weapons to Russia:” Changes of Russia and North Korea in the Ukraine War]. *Toyokeizai Online*, October 5 (Accessed on October 22, 2022).
- 堀田幸裕、2014「北朝鮮の第3次核実験と中朝関係—不信感を募らせつつ、北朝鮮を支援—」『インテリジェンスレポート』第64号（1月号）、4～16ページ。
- Hotta, Yukihiro. 2014. “Kitatyousen no dai3ji kakujikken to tyutyou kankei: Fusinkan wo tunorasetutu, kitatyousen wo sien” [North Korea’s Third Nuclear Test and China-North Korea Relations: Supporting North Korea While China is Growing Distrust on It]. *Intelligence Report*, No.64, January. p.4-16.
- 堀田幸裕、2020「同床異夢の中朝関係」松本はる香編著『〈米中新冷戦〉と中国外交 北東アジアのパワーポリティクス』白水社、103～140ページ。
- Hotta, Yukihiro. 2020. “Dousyouimu no tyutyou kankei” [China-North Korean Relations in the Same Bed with Different Dreams]. Haruka Matsumoto, ed., *‘Beityu sinreisen’ to tyugoku gaikou no pawa poritikusu* [“US-China New Cold War” and China’s Diplomacy in the Power Politics of Northeast Asia]. Hakusuisya. pp.103-140.
- 堀田幸裕、2022「更新された中朝友好協力相互援助条約—米中対立下での中国の思惑—」『中国研究月報』888号（2月号）、11～23ページ。
- Hotta, Yukihira. 2022. “Kousin saretu tyutyou yukou kyouryoku sougo enjo jyoyaku: Beityutairituka deno tyugokuno omowaku” [Renewed China-North Korea Mutual Assistance Treaty: China’s Expectations in the Sino-U.S. Confrontation]. *Monthly Journal of Chinese Affairs*, No.888, February. pp.11-23.
- 防衛省、2022「防衛大臣臨時記者会見」8月4日、https://www.mod.go.jp/j/press/kisha/2022/0804a_r.html（閲覧日：2022/10/22）。
- Japan Ministry of Defense. 2022. “Bouei daijin rinji kisyu kaiken” [Extraordinary Press Conference by the Minister of Defense]. August 4 (Accessed on October 22, 2022).
- 中央通社、2022「裴洛西訪台行程一次看 上午晉見蔡總統、下午會李明哲林榮基等人」8月3日、<https://www.cna.com.tw/news/aip/202208030030.aspx>（査閲時間：2022/10/22）。
- CNA. 2022. “Peiluoxi fangtai xingcheng yici kan shangwu jinjian Cai zongtong, xiauwu hui Li Mingzhe Lin Rongji dengren” [Pelosi’s Taiwan-Visiting Schedule at a Glance: Meeting with President Tsai in the Morning, and Meeting with Li Ming-che, Lam Wing-kee, and Others in the Afternoon]. August 3 (Accessed on October 22, 2022).
- 中國外交部、2022a「2022年4月29日外交部發言人趙立堅主持例行記者會」4月29日、https://www.fmprc.gov.cn/wjdt_674879/fyrbt_674889/202204/t20220429_10680663.shtml（査閲時間：2022/10/22）。
- Ministry of Foreign Affairs, the People’s Republic of China. 2022a. “2022nian 4yue 29ri waijiaobu fayanren Zhao Lijian zhuchi lixing jizhahui” [Foreign Ministry Spokesperson Zhao Lijian’s Regular Press Conference on April 29, 2022]. April 29 (Accessed on October

22, 2022).

中國外交部、2022b 「習近平同美國總統拜登通電話」 7 月 29 日、https://www.mfa.gov.cn/zyxw/202207/t20220729_10729582.shtml (查閱時間：2022/10/22)。

Ministry of Foreign Affairs, the People's Republic of China. 2022b. "Xi Jinping tong meiguo zongtong Baideng tong dianhua" [President Xi Jinping Speaks with US President Joe Biden on the Phone]. July 29 (Accessed on October 22, 2022).

中國外交部、2022c 「2022 年 9 月 26 日外交部發言人汪文斌主持例行記者會」 9 月 26 日、https://www.mfa.gov.cn/web/wjdt_674879/fyrbt_674889/202209/t20220926_10771881.shtml (查閱時間：2022/10/22)。

Ministry of Foreign Affairs, the People's Republic of China. 2022c. "2022nian 9yue 26ri wajiaobu fayanren Wang Wenbin zhuchi lixing jizhehui" [Foreign Ministry Spokesperson Wang Wenbin's Regular Press Conference on September 26, 2022]. September 26 (Accessed on October 22, 2022).

中國政府網、2019a 「習近平同朝鮮勞動黨委員長、國務委員會委員長金正恩舉行會談」 6 月 20 日、http://www.gov.cn/xinwen/2019-06/20/content_5401965.htm (查閱時間：2022/10/22)。

The State Council the People's Republic of China. 2019a. "Xi Jinping tong chaoxian laodongdang weiyuanchang, guowu weiyuanhui weiyuanchang Jin Zhengeng juxing huitan" [Xi Jinping Holds Talks with Kim Jong Un, Chairman of the Workers' Party of Korea and Chairman of the State Affairs Commission] June 20 (Accessed on October 22, 2022).

中國政府網、2019b 「王毅：期待朝鮮半島向世界傳遞更多的好消息」 7 月 2 日、http://www.gov.cn/guowuyuan/2019-07/02/content_5405381.htm (查閱時間：2022/10/22)。

The State Council the People's Republic of China. 2019b. "Wang Yi: Qidai chaoxian bandao xiang shijie chuandi gengduo de haoxiaoxi" [Wang Yi: It is Expect the Korean Peninsula would Deliver More Good News to the World]. July 2 (Accessed on October 22, 2022).

中華民國國防部、2022 「8 月 11 臺海周邊空域空情動態新聞稿」 8 月 11 日、<https://www.mnd.gov.tw/Publish.aspx?p=80218&title=%e5%9c%8b%e9%98%b2%e6%b6%88%e6%81%af&SelectStyle=%e5%8d%b3%e6%99%82%e8%bb%8d%e4%ba%8b%e5%8b%95%e6%85%8b> (查閱時間：2022/10/22)。

Ministry of National Defense Republic of China. 2022. "8yue 11ri taihai zhoubian kongyu kongqing dongtai xinwengao" [The Ministry of National Defense Issues a Press Release Explaining the Dynamic of CCP Aircraft and Vessels Detected by the Armed Forces Today and Its Approach as a Response]. August 11 (Accessed on October 22, 2022).

張芳、2014 『當代中國軍事外交 歷史與現實』時事出版社。

Zhang, Fang. 2014. "Dangdai zhongguo junshi wajiao: Lishi yu xianshi" [The Contemporary Military Diplomacy of China: History and Reality]. Shishi chubanshe.

楊昭全、孫豔姝、2013 『當代中朝中韓關係史 下卷』吉林出版集團。

Yang, Zhaoquan, Yanshu Sun. 2013. "Dangdai zhongchao zhonghan guanxishi xiajuan" [The

- Contemporary History of China-North Korean and China-South Korean Relations, Vol.2], Jilin chuban jituan.
- 新華網、2019「習近平將對朝鮮民主主義人民共和國進行國事訪問」6月17日、http://www.xinhuanet.com/politics/leaders/2019-06/17/c_1124635408.htm (査閲時間：2022/10/22)。
- Xinhuaawang. 2019. “Xi Jinping jiangdui chaoxian minzhu zhuyi renmin gongheguo jinxing guoshi fangwen” [Xi Jinping is to Pay a State Visit to the Democratic People’s Republic of Korea]. June 17 (Accessed on October 22, 2022).
- 新華網、2022「新華社受權公告」8月2日、http://www.news.cn/2022-08/02/c_1128885591.htm (査閲時間：2022/10/22)。
- Xinhuaawang. 2022. “Xinhuashe shouquan gonggao” [Xinhua News Agency Authorization Announcement], August 2 (Accessed on October 22, 2022).
- KOTRA (大韓貿易投資振興公社)、各年版『북한의 대외무역동향 (北韓對外貿易動向)』。
- KOTRA (Korea Trade-Investment Promotion Agency). Each Annual Edition. *Bughanui daeomuyeogdonghyang* [Foreign Trade Trends of North Korea].
- 로동신문 (労働新聞 [電子版])、2020「신강지역의 사회경제발전을 위하여 (新疆地域の社会経済発展のために)」7月10日、<http://www.uriminzokkiri.com/index.php?ptype=cgisas&mtype=view&no=1195012> (閲覽日：2022/10/22)。
- Rodong Simmun. 2020. “Singangjiyeogui sahoegyeongjebaljeoneul wihayeo” [For the Social and Economic Development of the Xinjiang Region]. July 10 (Accessed on October 22, 2022).
- 조선민주주의인민공화국외무성 (朝鮮民主主義人民共和国外務省)、2022「조선민주주의인민공화국 외무성 대변인 중국의 통일위업수행을 저해하려는 미국의 기도는 좌절을 면치 못할것이라고 강조 (朝鮮民主主義人民共和国外務省代弁人 中国の統一偉業遂行を阻害しようとする米国の企図は挫折を免れないだろうと強調)」8月3日、<http://mfa.gov.kp/view/article/15546> (閲覽日：2022/10/22)。
- Ministry of Foreign Affairs, Democratic People’s Republic of Korea. 2022. “Joseonminjujuuinmingonghwagug oemuseong daebyeonin junggugui tongilwieobsuhaengeul jeohaehalyeoneun migugui gidoneun jwajeoleul myeonchi moshalgeosilago gangio” [Spokesperson for DPRK Foreign Ministry Stresses that U.S. Attempt at Hindering Implementation of the Chinese Cause of Unification Is Doomed to Failure]. August 3 (Accessed on October 22, 2022).
- 조선중앙통신 (朝鮮中央通信) 2018「조로중 3자협상 공동보도문 발표 (朝口中 3者協商共同報道文)」10月11日、<http://www.kcna.kp/kp/article/q/d195b5b34b04897a2756d8682a665608.kcmsf> (閲覽日：2022/10/22)。
- KCNA. 2018. “Jolojung 3jahyeobsang gongdongbodomon balpyo” [Joint Press Release of DPRK-Russia-China Negotiations Made Public]. October 11 (Accessed on October 22, 2022).

れた)」8月15日、<http://www.kcna.kp/kp/article/q/919e17c7547c356b51df0e4221a65bbc.kcmsf> (閲覧日: 2022/10/22)。

KCNA. 2022e. “Gyeongaehaneun gimjeongeundongjikkeseo lossiyalyeonbang daetonglyeongege chugjeoneul bonaesyeosda” [Respected Comrade Kim Jong Un Sends Congratulatory Message to President of Russian Federation]. August 15 (Accessed on October 22, 2022).

조선중앙통신 (朝鮮中央通信)、2022f 「경애하는 김정은동지께 로씨야련방 대통령이 축전을 보내어왔다 (敬愛する金正恩同志にロシア連邦大統領が祝電を送った)」8月15日、<http://www.kcna.kp/kp/article/q/b94622863f6e7cc306a87b4bbe932d1d.kcmsf> (閲覧日: 2022/10/22)。

KCNA. 2022f. “Gyeongaehaneun gimjeongeundongjikke lossiyalyeonbang daetonglyeongi chugjeoneul bonaeyewassda” [Respected Comrade Kim Jong Un Receives Congratulatory Message from President of Russian Federation]. August 15 (Accessed on October 22, 2022).

조선중앙통신 (朝鮮中央通信)、2022g 「조선민주주의인민공화국 국방성 장비총국 부총국장 담화 발표 (朝鮮民主主義人民共和國防省裝備總局副總局長談話發表)」9月22日、<http://www.kcna.kp/kp/article/q/04bec5b5412fdb2d01ac259175a4819.kcmsf> (閲覧日: 2022/10/22)。

KCNA. 2022g. “Joseonminjujuuinmingonghwagug gugbangseong jangbichonggug buchonggugjang damhwa balpyo” [Vice Director General of General Bureau of Equipment of Ministry of National Defence of DPRK Issues Press Statement]. September 22 (Accessed on October 22, 2022).

